

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-181501

(P2007-181501A)

(43) 公開日 平成19年7月19日(2007.7.19)

|                |             |                  |         |      |       |             |
|----------------|-------------|------------------|---------|------|-------|-------------|
| (51) Int. Cl.  |             |                  | F I     |      |       | テーマコード (参考) |
| <b>A 6 1 G</b> | <b>5/00</b> | <b>(2006.01)</b> | A 6 1 G | 5/00 | 5 0 7 | 2 D 0 3 2   |
| <b>A 4 7 K</b> | <b>3/12</b> | <b>(2006.01)</b> | A 4 7 K | 3/12 |       | 3 B 0 9 5   |
| <b>A 4 7 C</b> | <b>9/00</b> | <b>(2006.01)</b> | A 4 7 C | 9/00 | Z     |             |
| <b>A 4 7 C</b> | <b>7/02</b> | <b>(2006.01)</b> | A 4 7 C | 7/02 | Z     |             |

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2005-381333 (P2005-381333)  
 (22) 出願日 平成17年12月30日 (2005.12.30)

(71) 出願人 506035083  
 武田 ふさ江  
 千葉県市原市南岩崎 3 0 4  
 (72) 発明者 武田 ふさ江  
 千葉県市原市南岩崎 3 0 4  
 Fターム(参考) 2D032 DA01  
 3B095 AB06 AC05 CA05

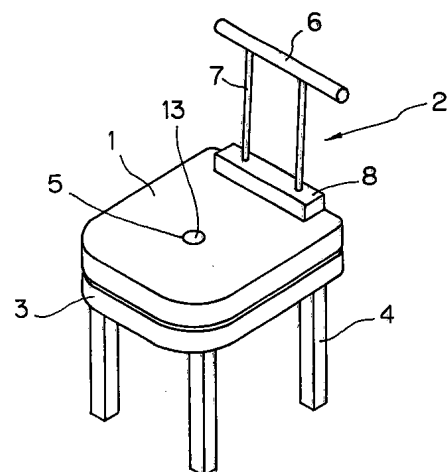
(54) 【発明の名称】 介護用椅子

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 浴室での体洗浄や浴槽への移動させる介護作業を容易にする介護補助椅子を提供する。

【解決手段】 椅子本体の土台部3と、椅子本体土台部3に回転可能に軸止された座板1と、土台部3と座板1間に設けられた回転機構と、下方への突出部を有する背もたれ枠2と、座板1および土台部3に設けられ背もたれ枠2の突出部挿入で固定される軸止め穴5を設けた構成よりなる。

【選択図】 図1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

椅子本体の土台部と、該椅子本体土台部に回転可能に軸止された座板と、前記土台部と座板間に設けられた回転機構と、下方への突出部を有する背もたれ枠と、前記座板および土台部に設けられ前記背もたれ枠の突出部挿入で固定される軸止め穴を設けたことを特徴とする介護用椅子。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、浴室での体洗浄や浴槽への移動させる介護作業を容易にする介護補助椅子 10 に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来の風呂椅子は低く床置き式のものがあった。

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0003】

従来の介護用の椅子は、1人で立ったり座ったり出来る人には良いが、介護が必要な人の体洗浄後、浴槽へ移動させるために持ち上げるのが大変だった。

その際、体を回転させる作業は不安定となり、介護者の負担となっていた。 20

本発明は以上の問題を解決するために考えたものである。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0004】

椅子本体の土台部と、該椅子本体土台部に回転可能に軸止された座板と、前記土台部と座板間に設けられた回転機構と、下方への突出部を有する背もたれ枠と、前記座板および土台部に設けられ前記背もたれ枠の突出部挿入で固定される軸止め穴を設けたことを特徴とする。

## 【発明の効果】

## 【0005】

体を洗浄する際には枠を差し込むことで固定式にできるので安定した状態で作業ができる。また、枠を取り外すことで回転可能となり、要介護者を椅子にのせたまま安全かつ簡単に体の向きを変えることができる。 30

これらは、介護者の作業を非常に楽にするものである。

また、体の極端に不自由でないものにとっては、自分で浴槽へはいることも可能である。

## 【発明を実施するための最良の形態】

## 【0006】

以下、本発明の実施の形態について図1から図6を用いて説明する。

本発明は図2に示すように背もたれ枠(2)が着脱可能となった椅子である。

本発明は椅子本体と、座板(1)と、背もたれ枠(2)と、椅子本体と座板(1)の間 40 に設けられた回転機構より構成されている。

椅子本体は、土台(3)に4本の脚部(4)が設けられたものである。土台(1)中央には図3に示すように上面から支軸受け穴(14)が設けられている。土台(3)上面には支軸受け穴(14)を中心とするようにリング溝(12)が設けられている。また、土台(3)後部には2つの土台枠穴(10)が設けられている。

座板(1)は土台(3)と同形状となっており、中心に軸止め穴(5)が設けられている。この軸止め穴(5)には軸(13)が固定式に設けられている。この際、図3並びに図4に示すように軸(13)は座板(1)上面が平となり、座板(1)下方へ突出ようになっている。座板(1)底面には図4に示すように軸(13)を中心として前記土台(3)のリング溝(12)と同様のリング溝(12)設けられている。また、座板(1)後 50

部には、2つの座板枠穴(9)が設けられている。この座板枠穴(9)は、座板(1)を取り付けた状態で前記土台枠穴(10)と同位置となるようになっている。また、土台(3)と座板(1)のリング溝(12)間には、リング溝(12)の大きさに合う形状のベアリング(11)が設けられており、これにより座板(1)の回転をスムーズにすることができる。図5に示すように、このベアリング(11)を上下のリング溝(12)で挟むように軸(13)を支軸受け穴(14)に指しこみ土台(3)を装着することで、回転式の椅子となる。

この際、全体として人が立ち上がるのに負担が低減する高さ位置となることが好ましい。

枠体は2本の背縦枠(7)の上部に背横枠(6)が架設されており、背縦枠(7)の下部にはストッパー棒(8)が設けられている。ストッパー棒(8)は、背縦枠(7)が前記土台枠穴(10)に届く長さ分突出する位置となっている。

この背もたれ枠(2)の突出部を座板枠穴(9)及び土台枠穴(10)に差し込むことで、座板(1)は土台(3)に固定される。

本発明は以上の構成よりなる。

本発明を使用するときは、浴室内の要介護者を座らせて体を洗浄するのに適した位置に設置する。背もたれ枠(2)を装着することにより、座板(1)は固定されるので、その状態で要介護者を座らせ、体を洗浄する。この際、背もたれ枠(2)があることで、後部へ倒れる事故を防止することができる。

また、浴槽へ移動させるときは背もたれ枠(2)を外し、図6に示すように座板(1)を約90度回転させ、浴槽方向へ向かせる。その状態で体を持ち上げ浴槽内へと移動させる。

浴槽からでるときは、これと逆の作業となる。

軽度の身体障害者であれば、自身で体を洗い、椅子に座った状態で方向を変え、自分で浴槽に入ることも可能である。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0007】

【図1】本発明の斜視図

【図2】本発明の分解斜視図

【図3】本発明の分解斜視図

【図4】本発明の回転台の裏面から見た斜視図

【図5】本発明の回転の状態を示した断面図

【図6】本発明の回転状態を示した斜視図

#### 【符号の説明】

#### 【0008】

- 1 座板
- 2 背もたれ枠
- 3 土台
- 4 脚部
- 5 軸止め穴
- 6 背横枠
- 7 背縦枠
- 8 ストッパー棒
- 9 座板枠穴
- 10 土台枠穴
- 11 ベアリング
- 12 ; 12 a ; 12 b リング溝
- 13 軸
- 14 支軸受け穴

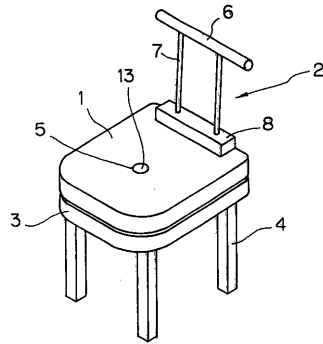
10

20

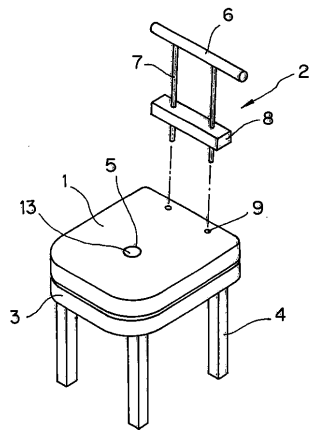
30

40

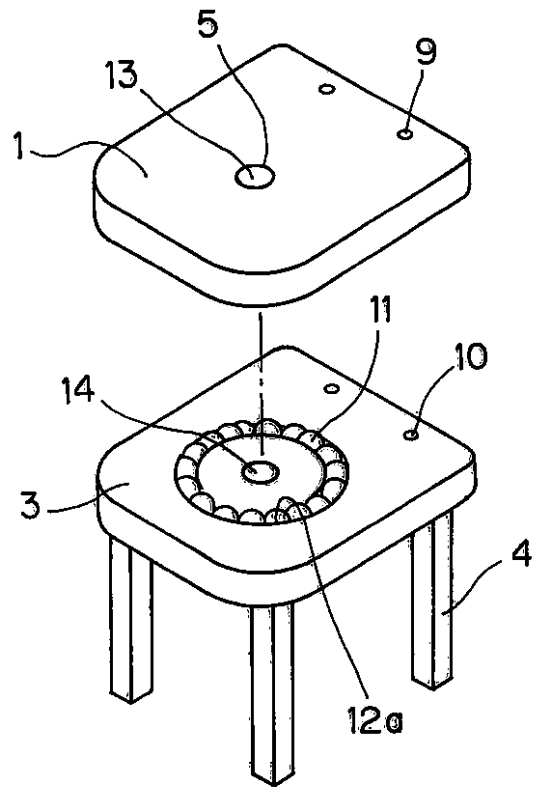
【図 1】



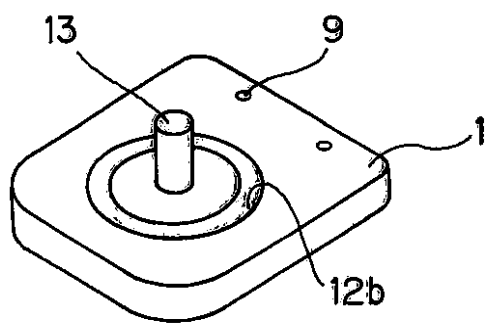
【図 2】



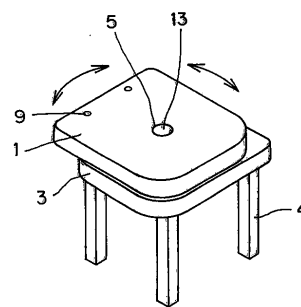
【図 3】



【図 4】



【図 6】



【図 5】

